

琵琶湖産アユの資源状況について

1. 魚群探知機による調査

- 水深30m等深線上の周回コースの魚群数による評価を行っている。
- 5月の魚群数は50群で平年比14% (2024年5月の魚群数は88群) となり、1月以降、資源水準は平年を大きく下回る評価が続いている(図1,2)。

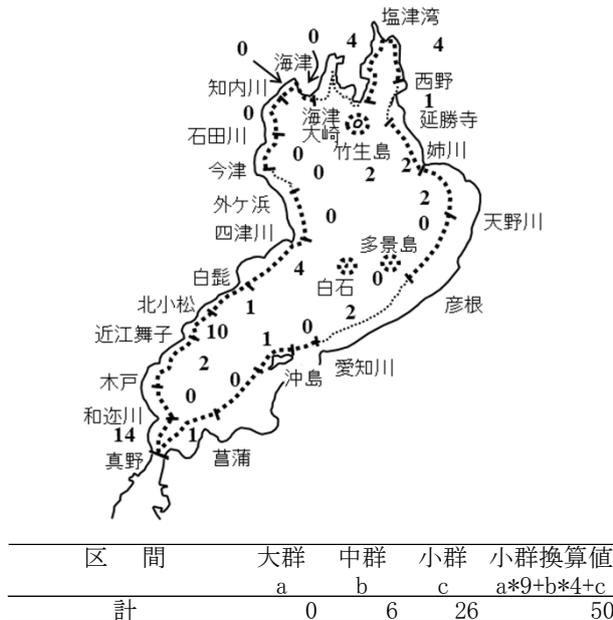


図1 令和7年5月魚探調査結果

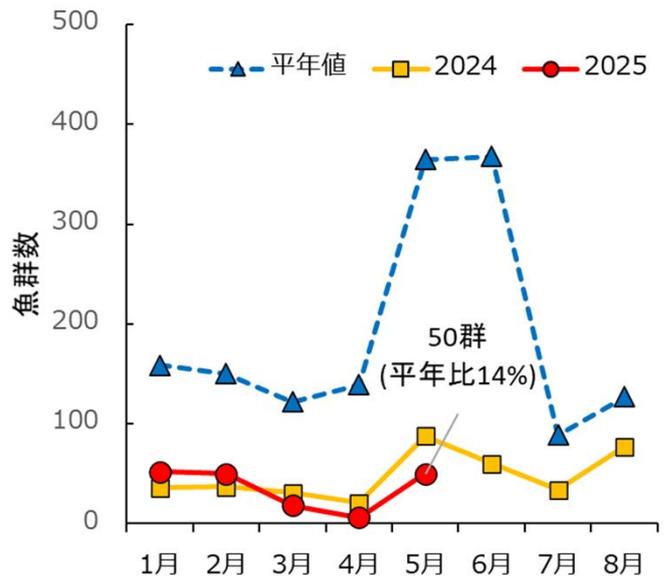


図2 令和7年の魚探調査結果の推移

- 北湖全域を横断するトランセクト調査の結果から、推定資源尾数による評価を行っている。
- 1月以降、資源水準は平年を大きく下回る評価が続いている。
- 4月の推定資源尾数は0.31億尾で平年比45% (2024年4月の推定資源量は0.30億尾) で昨年と同程度であった(図4)。
- 5月については現在調査中。



図3 トランセクト魚探調査の調査線

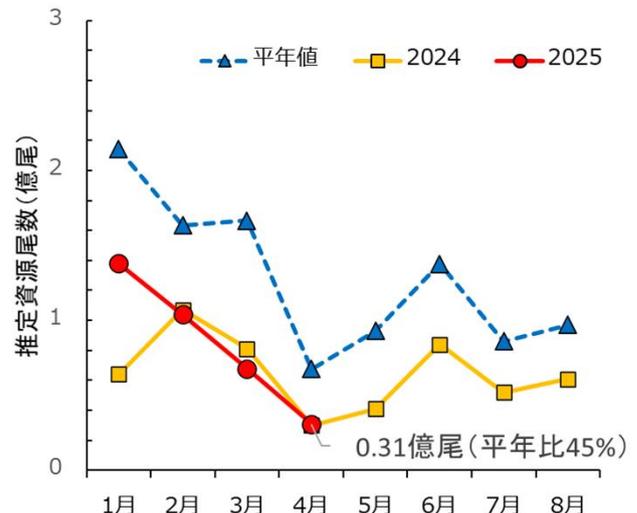


図4 令和7年のトランセクト魚探調査結果の推移

2. エリ漁獲アユの体型

- 平均体長は、12月解禁後から2月までは平年並み、3月以降には平年値を下回って推移(図5)。
- 平均肥満度は、12月解禁後から3月まで低下を続け、平年と比較してかなり低く推移。4月以降は平年値を下回っているものの上昇(図6)。
※5月の値については上旬と中旬の一部のサンプルによる暫定値

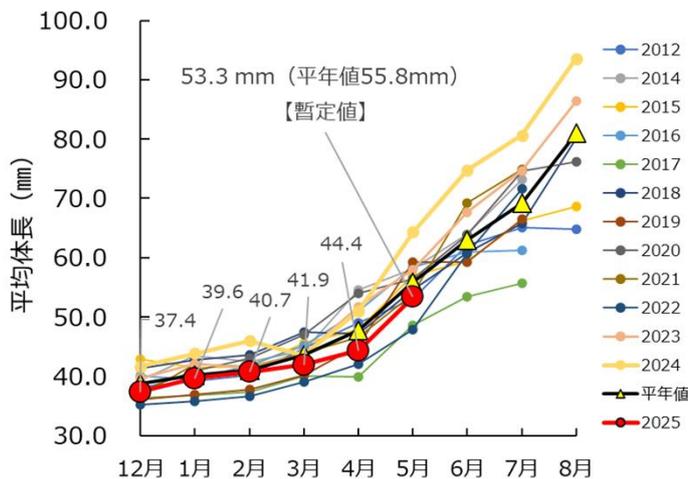


図5 エリ漁獲アユの平均体長の推移

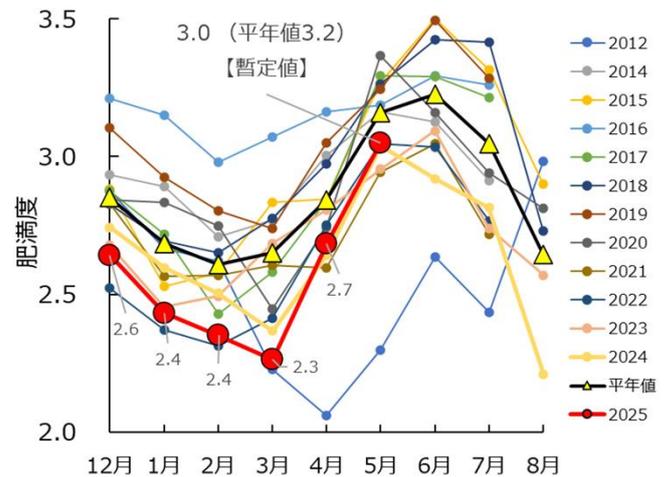


図6 エリ漁獲アユの平均肥満度の推移

- エリ漁獲魚では、4月下旬には体長100mmを超える大型個体もみられるようになった。(図7)。
- 平均肥満度は、2月下旬から低下傾向にあったが、4月上旬から上昇傾向に転じ、5月上旬には3.05となった。

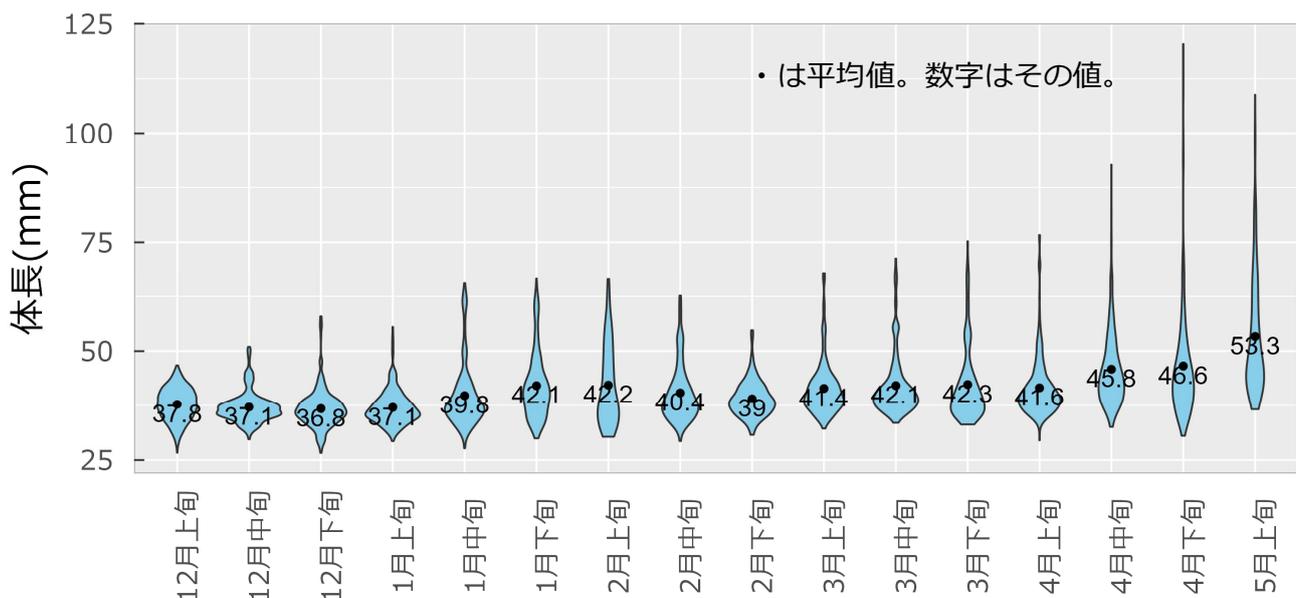


図7 2024年生まれエリ漁獲アユの体長組成の推移

3. ヤナ漁獲アユの体型

- 5月の平均体長は97.0mm、平均肥満度2.8でどちらも平年値を上回った(図8,9)。
※5月の値については上旬と中旬の一部のサンプルによる暫定値

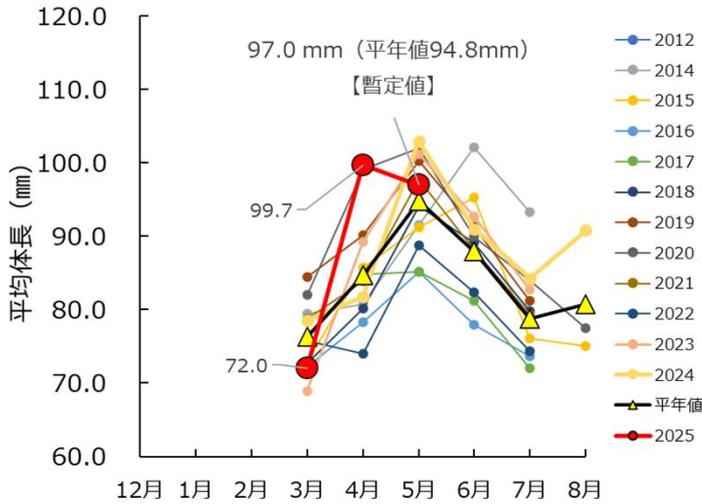


図8 ヤナ漁獲アユの平均体長の推移

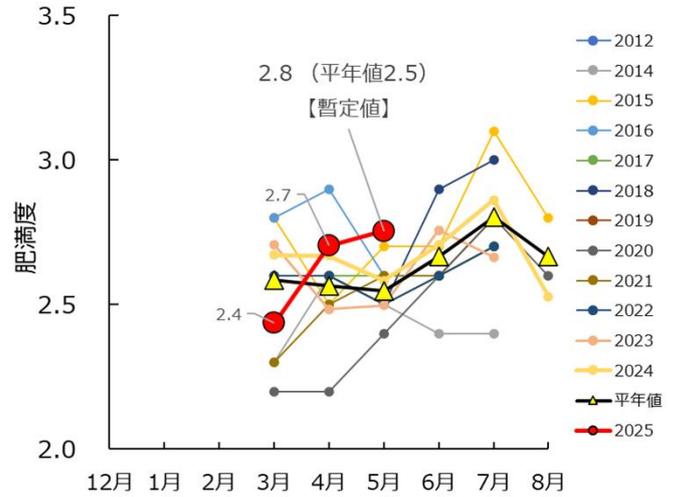


図9 ヤナ漁獲アユの平均肥満度の推移

4. 漁獲状況

時期	聞き取り内容	
前年12月 ～4月	<ul style="list-style-type: none"> エリを中心にすべての漁法で極度の不漁 	
5月	エリ	<ul style="list-style-type: none"> 5月上旬から、<u>北湖南部のエリ</u>で獲れはじめ、<u>数十kg/統～百十数kg/統</u>の日が5月中旬も続いている。 <u>北湖北部の一部のエリ</u>でも5月中旬から獲れはじめ、<u>数十kg/統の日</u>も増えてきている。
	ヤナ	<ul style="list-style-type: none"> 5月中旬から<u>一部の河川</u>で獲れはじめ、<u>数十kg～数百kgの日</u>が続いている。
	追いさで	<ul style="list-style-type: none"> 4月下旬から開始され、数十kg獲れる日もあるが、<u>10～20kgの日が多く、例年に比べると少ない。</u>
	小糸	<ul style="list-style-type: none"> 4月下旬から<u>一部の場所</u>で<u>数十kg/日</u>獲れる日が続いており、<u>多い時は百kgを超える日</u>もある。